

2023年11月19日(日) / 説教者：國分美生

説教：「それでも、種を蒔こう－BWA女性部世界祈祷日を覚えて－」

聖書：コヘレトの言葉 11：1～8

コヘレトの言葉は、社会的・経済的に激動する時代に成立したと言われていています。それはバビロニア帝国に代わり、ペルシア帝国が支配を広げていった時代。ペルシア王キュロス2世によってバビロニアは崩壊させられ、ユダヤはペルシアの支配下に入り、王の勅令によって捕囚からも解放されます。ユダヤは自治権を得ることになりましたが、それは外国の支配体制の下でかろうじて生き延びることで満足しなければならない、という程度のものでした。コヘレトの言葉は時代の精神的な不安や、社会情勢の浮き沈みをその背後に深く刻んでいます。

コヘレトのメッセージは気の滅入るようなものも多くありますが、人間の無力さ、はかなさを認識してこそ、わたしたちの人生における神の恵みの深さを知ることができます。「あなたのパンを水に浮かべて流すがよい…7人と、8人とすら分かち合っておけ国にどの様な災いが起こるか分かったものではない」自分のパンをがっちり抱え込んでいるのではなく、不確かな将来を目の前にしても分かち合えとコヘレトは勧めます。わたしたちの人生の喜びは自分が食事にあずかることだけでなく、それを他の人々に分け与えることにおいても発見できるのだと。そして「朝、種を蒔け、夜にも手を休めるな」と種を蒔き続けることを勧めます。実を結ぶのはあれかこれか、それとも両方なのか、悩んでも不安に思っても、それは神だけがご存じであるのだと。いつか報われるときが来るのか、それはいつ来るのか…神に信頼しなければ、私たちは分かち合い続け、種を蒔き続けることはできない者たちであるのでしょうか。

BWA(バプテスト・ワールド・アライアンス)の女性部は150か国を超える国のバプテスト女性たちが連なる世界的なコミュニティです。連合としては、アジア、北アメリカ、太平洋、アフリカ、ラテンアメリカ、カリブ海、ヨーロッパの7つ。各地に密着した課題…貧困や暴力、性暴力、先住民族の権利、人権、教育の権利、若者のリーダーシップ養成など多くの課題に向き合います。祈りと共に行動することは、それ自体が福音宣教です。聖書が書かれた時代から変わらずこの世は父権制社会が続いている。だから、女性であればこそ気づくことのできる社会の問題のために女性たちは当事者として繋がる。その活動内容をわかちあい、励まし合い、祈りあうことが、このBWA女性部世界祈祷日の趣旨です。わたしたちもそれぞれの場所で、日々祈りつつ種を蒔き続けているでしょう。その思いを共有できる教会でありたいと思います。(國分美生)